

外来透析治療施設における、急変時対応シミュレーションの重要性についての一考察

(医) 榎会 小平北口クリニック

○丸山真利 (マルヤマ マリ) 村上京子 川合ミサ子 海津明子 東ミヤコ 小沢 尚

【はじめに】

糖尿病性腎症の増加などにより外来透析患者の介護度の上昇、重症化がすすみ、看護師の急変対応能力が求められる。当院では定期的に救急勉強会を行っており、今回、過去の勉強会を振り返り、今後の外来透析における急変時の関わりについて考察したので報告する。

【方法】

- ① 在籍患者の平均年齢と糖尿病患者数を調査した。また、約2年間の透析中の急変事例について調査した。
- ② 救急勉強会に参加した看護師に意識調査を行った。

【結果】

- ① 平均年齢は68.9歳から66.4歳と低くなっていた。糖尿病性腎症は37.4%から41%に増加していた。救急搬送事例は24件であった。
- ② 看護師全員が救急勉強会は必要と捉えており、頻繁な勉強会の要望など、意欲的な意見が聞かれた。

【考察】

入院期間の短期化などにより、高い介護度や重症の患者を外来透析で治療しなければならない現状にある。外来透析に携わる看護師にも、病状の急変に速やかに対応する能力が問われ、看護師自身もその対応を習得することに意欲的であることが分かった。

【結語】

外来透析治療の特殊性を理解した上での定期的な救急勉強会は、看護師の救急場面に對する意識啓発に有効であり、重要な業務であると考えられる。